

千葉陸協だより



発行：千葉陸上競技協会総務委員会広報部 2019年6月1日発行

第14号

競技力向上のために

副会長 岩本 一雄

16年間の千葉陸上競技協会強化委員長を経て、2015年度より副会長の職を承わることになりました。昭和44年（1969年）の長崎国体で初めて選手として国体に出場し、平成26年（2014年）の長崎国体で最後のヘッドコーチを務めるまでの45年間現場でやってきた私にとって、副会長という職責は当初とても重荷に感じられました。

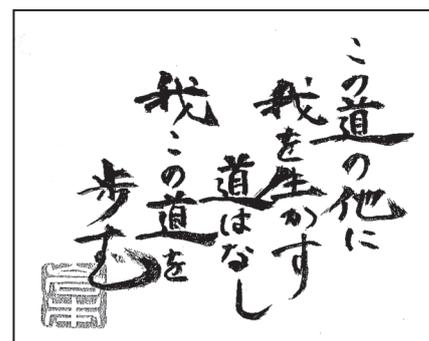
しかしながら、千葉県で生まれ育ち、陸上競技一筋でやってきた私にとって、千葉陸上競技協会の発展には、格別の想いがあります。私が強化委員長の時に、国民体育大会における天皇杯7回獲得という背景に、本協会の多方面にわたるご理解とご支援がありましたことは言うまでもありません。

また、私の恩師であります羽計致昭、滝田詔生両先生が、晩年まで本協会にご尽力され、お二人が「選手・指導者が力を発揮できるための競技環境がいかに大切か」を、常々語られていたことを今でもはっきり覚えています。

千葉県では毎年多くの競技会が開催されており、円滑な大会運営がとても重要であります。しかし、それに加えて県全体の競技力の向上が、本協会の発展には必要不可欠であります。

お二人の先生方の教えを受け継ぎ、またお世話になった千葉県のためにも、副会長として競技力向上に微力ながら貢献できればと、日々想う次第であります。

最後になりますが、2020東京オリンピックを1年後に控え、国民のスポーツに対する意識が日々高まっていく中、関係各位におかれましては、本協会へのますますのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



国際大会報告

本県出身の戸辺直人選手が今年行われた世界室内ツアーで日本新記録を樹立するとともに、ツアー4戦全勝・総合優勝に輝きました。その内容も高いレベルで安定したもので、今後の活躍が期待されます。

2019. 2. 2	ドイツ	2m35	(日本新記録) 優勝
2. 9	スロバキア	2m33	優勝
2.16	イギリス	2m29	優勝
2.20	ドイツ	2m34	優勝

陸上部紹介

「東京学館船橋高等学校」

東京学館船橋高等学校陸上競技部は、学校創立2年目に創部され32年を迎えます。陸上競技部は男女25名と少ない人数ですが、常に全力で個々の目標に向かって活動しています。少人数体制で特有の種目に偏りがちですが、県内の中学校や高校の先生方にご理解いただき支えられながら一歩ずつ着実に力をつけることが出来ました。

全国高校総体において、多種目にわたり優勝2回、上位入賞4回、また、国民体育大会では優勝2回、準優勝1回という成績を収め、関東大会においては29年連続出場することが出来ました。そして、平成30年度には千葉県新人陸上競技大会で初めての男子総合優勝することが出来ました。

練習環境は、決して恵まれているわけではありません。それでもアンツーカーではありますが、250mのトラック、跳躍・投擲の専用ピットがあり、他の部活動と重なることなく練習ができます。この環境の中で、高い意識を持ち、日々の練習を工夫し競技力を向上させています。

部活動として競技結果を残すことも大切ですが、まず高校生としての人格を形成し、精神面・生活面でも成長していく事にも重点を置き指導しています。そういった厳しい中でも生徒たちは常に前向きに努力をして頑張っており、その結果として総合優勝することが出来ました。今後も生徒たちの心と体のサポートをし、より良いチームを作りたいと思います。



※部活動紹介コーナーに登場してくれる部活動を募集しています。我こそはと思う部活動の方は千葉陸協までご連絡ください。

この人に
聞く

千葉のアスリート紹介

第13回 佐藤 一世 さん

こんにちは、八千代松陰高校の佐藤一世です。私はこの度、天皇盃第24回全国都道府県対抗駅伝競走大会に出場し、5区で区間賞を取ることが出来ました。また、ジュニア男子A優秀選手賞にも選んでいただきました。12月に行われた全国高等学校駅伝競走大会では1区で区間2位を取りましたが、区間賞まであと4秒と悔しい思いをし、今回の駅伝こそは区間賞を絶対にとると強い思いを持って挑んだ大会だったので、それが達成できて自信にもなりました。沿道で千葉頑張れという声をかけていただいたときに、高校ではなく、県を背負っているということを改めて思いました。また、U20日本陸上競技選手権クロスカントリーに出場し、2位を取ることが出来、世界クロスカントリー選手権大会への出場権を獲得することが出来ました。日頃から応援し、支えてくれている家族や先生に、結果という形で恩返しできたのではないかと思います。

初めての日本代表でまだ時間がわかりませんが、どこへ行っても自分の走りをするだけなので、今までやってきたことを信じて走りたいと思います。2020年には東京オリンピックが開催され、日本のスポーツがさらに盛り上がってくると思いますが、自分もこの流れに乗り、感謝の気持ちを忘れずに競技を続けていきたいと思っています。



プロフィール

松戸市立小金中 → 八千代松陰高校
2019 都道府県対抗駅伝 5区 区間賞

団体紹介 Team Accel

初めまして。Team Accel の大西です。この度、この場でチームを紹介させていただく機会を頂けて光栄に思います。

Team Accel は 2012 年の 4 月に創部し、「日本一応援されるチーム」を目指し日々活動しています。現在は総勢 50 名弱の社会人メンバーと 30 名のキッズ達が所属し、全力で走っています。

Accel は 3 つの活動に重きを置いて活動しています。1 つ目は「普及」です。自分たちが大人になっても真剣になれる「かけっこ」の奥深さを伝えていく活動をしています。イベントやメディアを通じた情報発信に力を入れています。2 つ目は「還元」です。陸上競技を通じて学んだ「目標を決め、試行し、作り上げていく」というプロセスは、競技以外の場面でも応用が効くことです。この経験を各々の仕事に生かし、また地域の子供達に、発展途上国のアスリートに伝える活動をしています。

社会人で競技を行うことはだれにも強制されることはありません。自由です。だからこそ、理念に対する、目的に対する熱意を共有できる仲間と高みを目指したいというメンバーが集まり活動しています。大学卒業を機に競技から離れなかった陸上愛溢れる仲間達と作った勢いでできたチームですが、誇りを持って走っています。

いい年をした大人が全力で競技に取り組む姿を中高生が見て「ああいう大人もいるんだ!」「社会人になっても陸上やっていいんだ!」と思ってきて、生涯にわたって陸上競技に携わってくれる人が増えたらうれしく思います。近年、メンバーの高年齢化が進んでいますが、県内外のアスリートから日本一憧れるチーム、日本一応援されるチームになれるよう今年度もがんばっていききたいと思います。

最後に、こういった陸上愛を持てるよう育ててくださった千葉県内の先生方に心より感謝申し上げます。



記録室 国際大会入賞者・国内大会優勝者・駅伝結果



室内陸上競技選手権 (2019.2.2-3 大阪)

女子 U16 60m ハッサン ナワール 松戸五中 7.66 ①
 男子 U18 60mH 村竹ラシッド 松戸国際高校 7.84 ①
 女子 U20 60mH 小林歩未 市船高校 8.29 ② U20 日本新記録

日本選手権男子女子 20km 競歩 (2019.2.17 神戸)

男子 20km 高橋英輝 富士通 1.18.00 ①

全国高校駅伝 (2018.12.23 京都)

男子 八千代松陰高校 7位 2.04.19 (佐藤一世、白鳥優人、石井一希、中園慎太郎、早川晃平、富田峻平、水村竜己)
 女子 成田高校 9位 1.08.34 (風間歩佳、小坂井智絵、山崎りさ、藤村華純、小杉真生)

全国中学駅伝 (2018.12.16 滋賀)

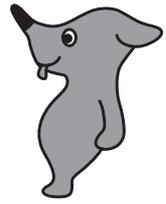
男子 我孫子市立我孫子中学校 7位 57.33 (沖康平、柴崎大夢、佐藤泰成、寺門大毅、秋山壱期、石島太一)
 女子 我孫子市立久寺家中学校 4位 41.45 (高橋葵、斉藤璃音、原有彩、本城聖実、富谷ありさ)

都道府県対抗駅伝 (男子 2019.1.19 広島 14位 2.21.47) (女子 2019.1.13 京都 5位 2.17.26)

男子 石井一希 (松陰高) - 栗田隆希 (逆井中) - 佐藤佑輔 (富士通) - 梅谷康太 (流経柏高) - 佐藤一世 (松陰高) 区間賞 - 齋藤英介 (白山中) - 蜂須賀源 (エニバー) (エニバー)
 女子 風間歩佳 (成田高) - 小坂井智絵 (成田高) - 南日向 (葛飾中) 区間賞 - 上田未奈 (城西大) - 伊澤菜々花 (エニバー) - 内藤早紀子 (パナソニック) - 山崎りさ (成田高) - 和田水希 (白山中) - 青山瑠衣 (エニバー)

学 校 紹 介

八千代市立大和田中学校



千葉県PRマスコットキャラクター チーバくん
千葉県許諾第A287-14号

八千代市立大和田中学校は全校生徒 892 名の大規模校で、生徒の主体性を大切にし、部活動が盛んな元気に溢れた学校です。陸上部は3年生 34 名、2年生 60 名、1年生 39 名の総勢 133 名、顧問 3 名で活動しています。

ここ 5 年間の成績は、全国大会 3 年連続出場（女子砲丸投 5 位入賞）、関東大会 2 度出場（女子砲丸投 3 位・5 位入賞）、ジュニアオリンピック 3 年連続出場（女子砲丸投 7 位・2018 年度は B 女砲丸投・A 女砲丸投・B 女走幅跳の 3 名が出場）。また、総合では今年度の県総体で女子総合 3 位、県新人で女子総合優勝、男女総合優勝などの成績を収めています。

日々の活動では、平日火～金までの朝午後練習と土曜日朝 2 時間の練習で、年に 1 回夏休みに八千代少年自然の家で合宿を行い、近隣の小学校の行事に合わせ合同で練習を行ったりしています。また、部活の保護者会も充実していて、ホームページの運営や炊き出し、懇親会など年に数回実施されています。陸上部の方針は、練習・あいさつ・返事・行動を一生懸命やることはもちろん、委員会活動や行事など、その他のリーダーにも積極的に参加したり、各家庭での役割をしっかりと果たすことです。そして、その活動を通して人として成長することが、競技力の向上にも繋がると考え、いろいろな場所で積極的に活動しています。

2019 年度は、県総体男女総合優勝女子総合優勝、全国大会 5 名・女子リレー出場、関東大会出場、ジュニアオリンピック出場、そして一人ひとりが自己ベストを出すことを目標にまた頑張っていきたいと思います。

大和田中学校 教諭 小松遼平



発行 一般財団法人 千葉陸上競技協会

〒 263-0011 千葉市稲毛区天台町 323

千葉県総合スポーツセンター

ちばアクアラインマラソン実行委員会事務局 分室内

TEL : 043-252-7311 FAX : 043-252-7314

<http://www.jaaf-chiba.jp/>